Market Flash

2020 年7月9日（木）

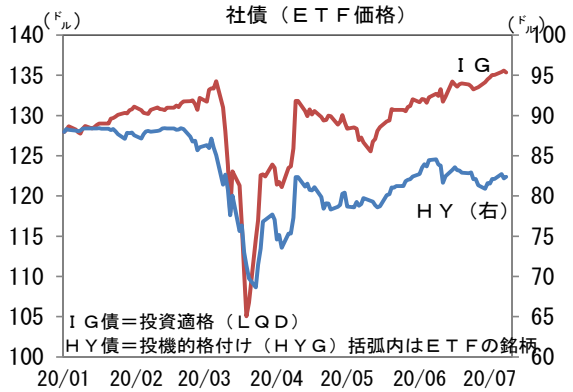
リバウンド第一波ピークアウトの時間？
～感染再拡大等に対する不安残存～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査
主任エコノミスト 藤代 宏一（TEL：03-5221-4523）

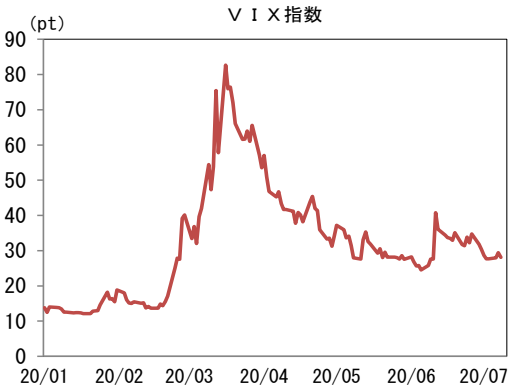
・日経平均は先行き 12 ヶ月 20,000 程度で推移するだろう。
・USD/JPY は、先行き 12 ヶ月 105 程度で推移するだろう。
・日銀は現在の YCC を長期にわたって維持するだろう。
・FED はゼロ金利政策下で資産購入を継続するだろう。

＜＃エコノミックサプライズ指数＃景気ウォッチャー調査＞

・前日の米国株は反発。ＮＹダウは＋0.7%、S&P500は＋0.8%、NASDAQは＋1.4%で引け。コロナ感染者数拡大（ただし重傷者数と死亡者数は減少傾向）が嫌気されるなか、ハイテク株を中心に買い優勢。なお米国のコロナ感染者数は300万人を突破。カリフォルニア州の新規感染者は11,694人と過去最多を更新。ＶＩＸは28.1へと低下。クレジット市場はＩＧ債（投資適格）、ＨＹ債（投機的格付け）が共に堅調。

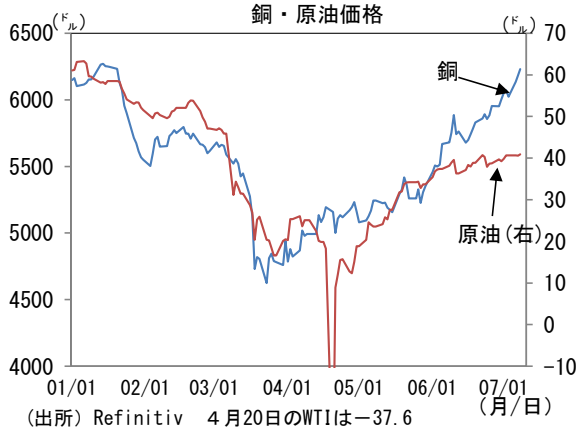


（備考）Refinitivにより作成

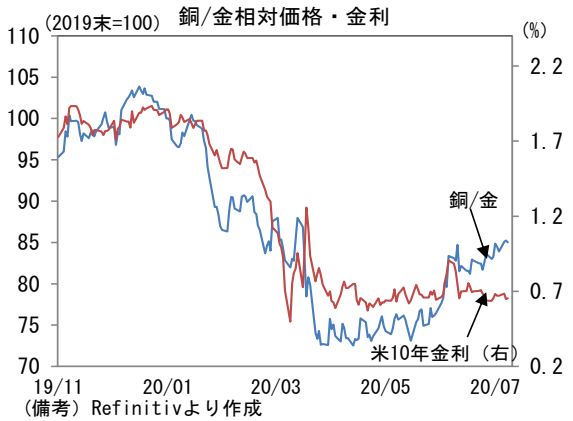


（備考）Refinitivにより作成

・米金利カーブはベア・スティープ。２年は0.157%（＋0.2bp）、10年は0.664%（＋2.5bp）、30年は1.400%（＋2.5bp）で引け。10年予想インフレ率（BEI）は1.402%（▲1.5bp）へと低下。為替（G10通貨）はUSDが全面安。USD/JPYは107前半へと水準を切り下げ、EUR/USDは1.13半ばへと上昇。商品はＷＴＩ原油が40.9ﾄﾞﾙと概ね横ばいも４営業日連続で40超を維持。銅は6232ﾄﾞﾙ（＋44.0ﾄﾞﾙ）へと上昇し、金も1820.6ﾄﾞﾙ（＋10.7ﾄﾞﾙ）へと上昇した。安全資産の「金」と景気の強さを反映する「銅」の相対価格は上昇（銅/金）。

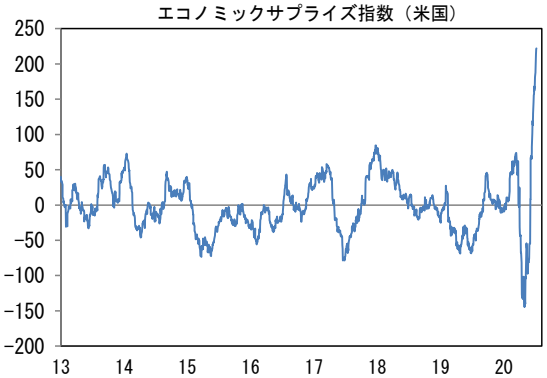


（出所）Refinitiv　４月20日のWTIは－37.6

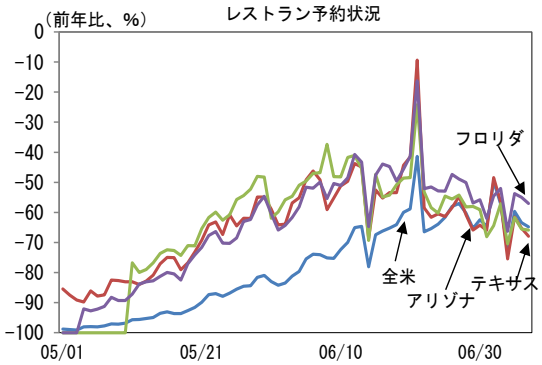


（備考）Refinitivより作成

・米国のエコノミックサプライズ指数（経済指標が市場予想を上回ると上昇）が222と空前の水準に到達。予想外の雇用増が示された５月雇用統計を皮切りに小売、住宅、製造業データは大半が市場予想を上回って着地。経済活動再開は市場関係者の期待以上のペースで進んできた。もっとも、ここからは市場関係者の目線が切り上がることに加え、南部地域における感染再拡大が嫌気される可能性に注意が必要。レストラン予約サイト、オープンテーブルの予約状況に目を向けると、ここへ来て南部を中心に下向きのカーブを描いており、感染再拡大が経済活動を阻害している様子が見て取れる。コロナ感染による死亡者数の低下傾向に鑑みると、ロックダウンはおろか飲食店の完全閉鎖といったような厳格な措置が講じられる可能性は低そうだが、人々の外出抑制を通じたリバウンドペース鈍化は覚悟しておいた方が良さそうだ。



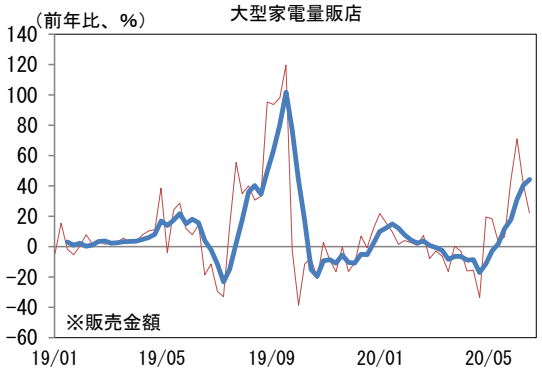
（備考）Refinitivにより作成



（備考）OpenTableにより作成

・そうしたリバウンド第一波のピークアウト懸念は日本も似た構図がある。昨日発表の６月景気ウォッチャー調査は現況判断ＤＩが38.8へと23.3pt上昇、先行き判断ＤＩも44.0へと7.5pt上昇し、一先ず鋭い改善が示された。緊急事態宣言解除に伴うペントアップ需要発現、定額給付金の支給開始などを背景に人々が肌で感じる景況感が改善した模様。こうした動きは大型家電量販店の販売増とも整合的である（経産省がＰＯＳデータを用い公表）。もっとも、飲食・宿泊業を中心にＢtoＣサービス業がコロナ禍以前の状態を取り戻す見通しが開けないなか、コメント集には感染再拡大に対する強い不安が多く寄せられており、指数改善とは裏腹に心理面の警戒感は強い。このように将来見通しの不透明感が強いなか、７月以降の改善ペースは鈍化する可能性が高いだろう。また定額給付金の効果息切れ等も意識され易い時間帯になるのではないか。

（備考）内閣府により作成 季節調整値



（備考）METI POS小売販売額指標より 太線：４週平均（年／月）

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。